

CLOSE UP!



心とからだに一日でも早く元気を取り戻していただくことを目指して、昨年秋から医学と栄養学の両面が協力したチームによる医療という新体制で取り組んでいます。

栄養と美味しさで 健康回復をめざす栄養部のご紹介

病院での食事は治療の一環として重要な役割を担っていると同時に、入院中の患者さんにとって最大の楽しみの一つでもあります。医学と栄養学の強力な連携を目指して、昨年10月に設立された栄養部の取り組みについてご紹介します。

●各分野の医療スタッフが連携して最良の栄養支援

栄養状態を良くしていくことは、予後(治療後の経過、回復)にとって非常に大きな影響を与えることから、このところ医学的な見地からの栄養治療がとくに重要視されるようになっていきます。

そのための活動をしているのがNST(Nutrition Support Team=栄養サポートチーム)という病院内の医療チームです。

これは医師や管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師などの専門スタッフが連携し、それぞれの知識や技術を統合して最良の方法で栄養支援をしようというものです。

患者さんの病状によって点滴、輸液の静脈注入、経口と栄養補給の方法は異なりますが、それぞれの状態に最もふさわしい方法で良好に栄養摂取できる状態を保つことが

重要です。栄養状態が悪いと回復が遅れたり、手術後に感染症や合併症を起こしたりすることもあるからです。

がん患者さん等にどうやって食べてもらうか、そして食べられない人いかに栄養をつけていくか等、栄養摂取が健康回復にとって大きな課題となります。

点滴や静脈への輸液注入はそれなりのカロリーや栄養素は摂取できるとしても、腸を使わないため腸内細菌叢のバランスが崩れ、また腸の細胞が萎縮し細菌などによる感染症が起こりやすくなり、さらに免疫力も低下します。

本来は口から食べることが最良で、経口摂取によってインスリンの分泌も促されますし、嚥下という行為は運動機能の一番の基本であり、自分の口で食べられることが回復を見る上でのバロメーターでもあります。

●食べることは病院で最大の楽しみであり最良の治療

栄養部の主な業務は入院患者さんへの食事提供であるフードサービスと、栄養食事指導も含め入院から退院後も視野に入れた栄養管理です。

医師の指示に基づき、糖尿病食、腎臓病食、肝臓食、高血圧食などの食事療法や、食習慣改善について栄養食事指導を実施しています。個々の患者さんにあわせ、治療に必要な食事のとり方について具体的にアドバイスさせていただき、管理栄養士が食生活における不安や疑問にお答えし食事療法への理解を深めるお手伝いをしています。

化学療法や放射線治療中の方などは食欲が失われがちですし、脳卒中の後遺症等で嚥下(飲みこみ)がうまくできない患者さんもうらやまします。また手術の前後にも、栄養状態の把握と管理がとても重要になってきます。

美味しくバランスが良い食事は体にいいのはもちろん、心の栄養にもなり健康を回復させてくれます。

食事は治療の一環として重要な役割を担い、同時に入院中の患者さんにとっては最大の楽しみの一つでもあります。

ですから、個々の患者さんの病状に応じたきめ細かな対応をしつつ、「安全で安心した美味しい食事」が継続的に提供できるよう励んでいます。

栄養学と医療が有機的につながったことは栄養学科にとっても意味は大きく、栄養の治療効果が具体的に見えることはさらに効果的

■説明は、
徳島大学病院 栄養部
(写真左) 中屋豊(なかやゆたか) 部長
(写真右) 松村晃子(まつむらあきこ) 副部長
■問合せ先 / 栄養部 Tel.088-633-9202



す。昨年11月からは管理栄養士が病棟に出向く等、能動的・行動的な取り組みもしています。

入院患者さんが一日でも早く健康回復して在院日数が少なく退院できるのはもちろん、「美味しかった」、「煮付けのコツを教えて欲しい」といったお褒めの言葉をいただくことにもやり甲斐と大きな喜びを感じます。

